

1 教育目標

「克己・精進」の校訓のもと、確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育み、社会に貢献できる人材を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 産業構造の変容に伴い勤労生徒が大幅に減少する中、不登校経験者や全日制高校から転編入する生徒が増加している。生徒の成育歴・学習歴等も多様化し、発達障害など特別な支援を必要とする生徒も見受けられる。
- ② 基礎学力や学習意欲、向上心の低い生徒が見られる。また、コミュニケーション能力や自己肯定感が乏しいため、人間関係づくりを上手くできない生徒も見られる。習熟度別少人数授業を実施するとともに、安心して積極的に参加できる授業や特別活動の展開に取り組んでいる。
- ③ 基本的な生活習慣や規範意識が身に付いていない生徒が見られる。落ち着いた学習環境を整え、教育活動のあらゆる機会を捉えて、基本的な生活習慣・規範意識の定着に取り組んでいる。
- ④ 主体性や進路意識の低さから、進路決定が遅れがちである。また、正規就労意識が乏しい生徒も見受けられる。関係機関や地元企業と連携を図るとともに、キャリア教育を充実し望ましい勤労観・職業観の育成に取り組んでいる。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 社会人として求められている「生きる力」を身に付ける。
- ② 基本的な生活習慣を身に付けるとともに、社会生活を営む上で不可欠な規範意識の定着を目指す。
- ③ 社会生活に必要なコミュニケーション能力を育成するとともに、他を思いやる心を育む。
- ④ 進路実現に必要な望ましい勤労観、職業観を育成し、正規就労を目指す意識を育む。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 教育目標を実現するため、全教職員が学校課題を共有し、組織的な学校運営を継続的に展開する。
- ② 確かな学力の定着のため、学習への興味関心、学ぶ意欲の向上を目指し、ICTを活用するなど授業の工夫・改善に努める。
- ③ 生徒一人ひとりの豊かな心を育み、コミュニケーション能力の向上を図る指導を学校全体で実施する。
- ④ 学校評価、授業評価、校内研修等あらゆる機会を捉えて、指導力の向上を図るとともに、教育活動の活性化に努める。

3 今年度の重点目標

- ① 生徒一人ひとりの能力に応じたきめ細かな学習指導により、基礎学力を養い、学校全体の質の向上に努める。
- ② 基本的な生活習慣を確立するとともに、いじめや暴力行為等の未然防止の取組を充実し、規範意識の向上を図る。
- ③ 教育活動全体を通じて主体性やコミュニケーション能力等の社会性を身に付け、社会人として必要な基礎能力を育む。
- ④ キャリア教育を推進し、就労意識を高めるとともに、一年次からの進路指導を充実し、卒業生徒全員の進路実現を目指す。